

1. 教育の責務

この科目は、領域および保育内容の指導法に関する科目群に属し、「領域に関する専門的事項」の科目である。また、この科目群の中の「保育内容の指導法」の保育内容の領域「表現」とも関連がある科目である。音楽の楽しさを通して子どもの感性を引き出せるよう保育者の資質能力が求められている。

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること」が、指導に当たっての配慮事項として示されている。

2. 教育の理念

新しい幼稚園教育要領の改正では1:幼稚園・保育園・認定こども園で幼児教育の内容が統一されたこと、2:「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を明確化された。この中の自立心、共同性、豊かな感性と表現など、これらは社会生活のなかで必要となる思考力や判断力、コミュニケーション力の基礎となるもので、幼稚園生活での遊びや体験を通して身につけることが新たな幼児教育の基準とされ、音楽の表現活動を通して保育・教育者として遊びを通してコミュニケーションスキルを高める体験ができるよう表現力や言語活動を特に重要視して取り組んでいる。発達段階配慮した選曲、季節感を味わう表現活動、子どもが楽しく音楽に親しめるために必要な配慮と音楽的なスキルを習得させることが必要と考えている。

3. 教育の方法

主な授業の取り組みは、以下の6項目。

1. 歌唱表現のベースとなる発声と
2. 手遊びや童謡唱歌の歌詞を通して、歌詞の内容をイメージして子どもと歌の楽しさを共有する。
3. 身体表現を通してリズム感覚を楽しむ。

4. 音楽を用いてコミュニケーションスキルを高める演習活動。
5. 発達段階に配慮した選曲の仕方、関連して、楽譜の基礎知識を学習すること。
6. 毎回、授業の振り返りをさせ「コメントシート」に気づきや質問等を記入させフィードバックすること。

4. 教育の成果

コロナ感染防止の観点から内容を縮小してきたが、今年度は、3年ぶりに合唱に取り組んだ。受講生は、高校3年間でコロナ対応の授業環境で過ごして短大で4年目を迎えていた。合唱に取り組んだきっかけは、協働で成果を出す喜びを知ること、音楽表現する喜びや楽しさを体験させることなど、音楽の理論や基礎技能の向上より保育者としての質向上に重きを置いて人間形成を柱に於いて表現活動を行った。しかし、内容的に昨年より評価の幅が広がり、全般的に内容の浅い理解度であった。また、意欲的な学生からは物足りなさを感じる意見もあったため、反省材料となった。

授業評価アンケート結果(100%)

5段階評価	5	4	3	2	1
こども保育 24名	31	50	19	0	0
こども教育 21名	36	36	12	8	8

5. 教育の目標

次年度は、コロナ以前の授業を基に、内容の見直しを行ない、理論と実践のバランスを考慮して、意欲的な学生にも応えられる授業内容にする。音楽の基礎的な知識をワークシートなどを用いて学ばせることや指導法の実践の機会を増やすことなど、授業改善に取り組む。